



「舟入高校から・・・エチオピアへ」というテーマで、木村真紀葉さんが、後輩達に講演をしてくれました。木村さんは、舟入高校の国際コミュニケーションコース6期生で、東京外国語大学で平和構築を研究し、さらにイギリスの大学院に進学し、NPO活動で世界各国の人道支援を実践する中で、現在国連の職員として貢献されています。木村さん自身の高校時代の経験から始まり、国連人道問題調整室（OCAHA）の仕事内容も詳しく話していただきました。アフリカのチャドでの活躍するなど、世界中を飛び回って活躍する先輩の話ということもあり、生徒達は尊敬のまなざしで真剣に話を聞き、積極的に質問していました。この日、台風7号による大雨のため警報がでて、生徒達が自宅待機になっていたため、開催が危ぶまれましたが、警報解除でこの講演会がなんとか実施でき、本当に良かったと思いました。

★生徒の感想★

・国際紛争を解決するためには、それは特別な場所ではなく日常のどこでも起こることであると、感じることから共存の方法を考えるべきだと話されて同感しました。

・今の日本の平和は、多くの人の多くの努力の上に成り立っていることや、人間の知恵は個人の利益ではなく、紛争をなくすために使うべきだと思いました。

・人間関係を築き、高い言語力を持ち、異文化を理解するなど、様々な交渉時に、相手のメンツを立てることができないと紛争を解決することもできないと思いました。広い意味でのコミュニケーション能力の大切さを痛感しました。

・なんとなく得意な英語が活かせる職業に就きたいと思っていましたが、先輩のように危険な場所でも訓練を受けて、世界平和という大きな目標のために日々努力されている姿に感動しました。



舟入高の後輩へエール 国連職員木村さん講演



木村さん(左端)の話に聞き入る生徒

国連人道問題調整室(ＯＣＨＡ)職員としてアフリカ中部チャドで活動する広島市中区出身の木村真紀葉さん(30)が4日、母校の舟入高(中区)で講演した。普通科国際コミュニケーションコース2年の41人が耳を傾けた。

木村さんは現在、チャドで隣国からの難民といった支援の必要な人の数を調べている。大学時代に紛争国出身の留学生と話し、紛争解決のため国連職員を志したと振り返り、「やりたいことの動機が明確なら自分に合った職業は見えてくる」とエールを送った。

立場の違う人たちの間に立って意見を聞き、共存の方法を探る仕事の経験から、「相手を思いやる想像力が大切」とも強調。「物事をいろんな視点から考える習慣を付けてみて」と助言した。

山手綾乃さん(16)は「視野を広げるため、大学に入ったら留学したい」と話していた。

(大川万優)